

2019年4月24日

パルシステム東京生活協同組合様

ペシャワール会

2002年9月のご支援以来、長きに亘り当会中村哲医師のアフガニスタンにおける活動にご理解と多大なるご支援を賜りまして、ありがたく厚く御礼申し上げます。

お寄せいただきました組合員皆様からの平和カンパ 1,184,786円 はPMSの事業に有効に使わせていただきましたことをご報告しますとともに深く感謝申し上げます。

2018年度の現地プロジェクトは以下の通りです。

2018年度も春から少雨で、4月にはユニセフ、WF P（国連世界食糧計画）などの国連機関が注意を呼びかけました。雨は殆ど降らずに被害が拡大する中、10月にはOCHA（国連人道問題調整事務所）は「餓死線上」330万人、「飢餓線上」830万人と飢餓の急増を訴えました。水不足はアフガン全土に及び、34州中20州に食糧危機警報が発せられ、アフガン西部、南部の住民約26万人が難民化したと報道されました。

PMSが活動する東部でも干ばつによる国内避難民が発生する中、彼らの帰農を促すべく事業は進められています。年末には断続的に雨が降り、北部山岳地帯は豪雪が降りました。そのため同地では干ばつは一時緩和したと思われませんが、春の雪解けと集中豪雨が重なり洪水が発生し、予断を許さない状況が続いています。大河川の水量は、東部ではそれほど減っていないため、隣国に影響しない規模の灌漑設備で農業の再生を試みるのが有効と中村医師は考えています。

## 《2018年度プロジェクト報告》

### 1. 医療活動

2018年度は前年度に引き続き、PMS（ピース・ジャパン・メディカル・サービス）のアフガニスタン東部山岳無医地区ダラエヌールの診療所では、24時間対応できる診療体制がとられています。一般診療に加え母子保健向上のため女性職員による妊産婦の保健指導も行われ、ワクチン接種や結核治療も続けられています。マラリア予防のための蚊帳も配布されています。良い診療が受けられると地域住民からの信頼を集めています。（年間診療数 約4万人）

### 2. 灌漑事業

2018年度は以下の用水路建設を手がけました。

#### 〈マルワリードⅡ用水路の開通〉

2018年2月にマルワリードⅡ用水路の主幹水路5.5キロが開通し、目標の4カ村への送水が可能になりました。

#### 〈カマ第一、第二堰の大改修完了と訓練所〉

2017年から開始した本事業は、2019年2月にほぼ工事を終えました。カマ第一、第二堰は、福岡県朝倉市の山田堰の機能を全て取り入れたことで、PMS取水方式の中でも最も完成度が高いものとなりました。

このカマ堰の近くに建設された訓練所では、昨年2月から地域の農業指導者、水主、地方自治体の技術者たちを対象に訓練が始まっています。カマ堰は、山田堰の活きたモデルとして教材にもなっています。

### 3. 農業事業

2009年夏、マルワリードI用水路が最終地のガンベリ沙漠に到達後、PMSは沙漠の開拓をはじめました。試験農場として約230ヘクタールを確保し、果樹や穀類、野菜を中心に様々な生産が試みられ、畜産も拡大し、開墾が更に進んでいます。

また、PMSの農業担当のスタッフがアフガニスタンより来日し、マルワリード用水路のモデルとなった山田堰のある福岡県朝倉市にて農業研修、養蜂場視察を行ないました。この経験を活かして2019年度はガンベリ試験農場での養蜂事業が予定されています。

沙漠開拓のための防風砂林、用水路沿いの柳枝工及び護岸用の植樹として、2003年からの植樹数は、3月末で100万本に達しました。

### 4. 広域拡大を目指して

近年の気候変化に対応して、洪水や渇水でも安定して取水できるPMS方式をアフガニスタン全土に普及するための訓練所が、PMSとFAO(国連食糧農業機構)との関連事業でミラーン堰横に建設されました。2018年2月から始まった訓練は10数回、受講生240人に及び、現在は第二期目が開講されています。各地からの参加者による普及が期待されています。

2002年に立ち上げられたPMSの「緑の大地計画」は2020年までに計画地域の灌漑(安定灌漑面積16,500ヘクタール、人口65万人)を目指し、広域展開のモデルケースとなります。

2019年度も引続き現状(大干ばつによる渇水と洪水の繰り返し)に即した取水システムの建設、流域住民による維持・管理を促進し、農業を核とした地域復興のモデルとして提示、同時にアフガニスタン各地での普及に向け、さらに基盤を固めていきたいと考えています。